

教科用図書調査報告書

甲府市教科用図書採択審議委員会

1 種目 美術

2 報告概要

教科書名 出版社名	特 徴
開隆堂	<p>構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年のスタートページで高村光太郎の作品を紹介しているのは良い。構成は、見ること、風景、転写、人物、素材、動物に関する構成になっている。 ・ 2年生では風景画、自画像、空想画、水墨画、心象画、版画、彫刻、ピトグラム、ポスター、錯視、デザイン（ビジュアル・パッケージ・本・安心安全・空間・明かり・型・織物・木）、学びの資料など多様な題材が示されている。鑑賞作品については各社遜色ない構成だが、独立した設定になっている。 <p>□観点との関係</p> <p>観点（１）表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の三つの目標の提示によって、知識・技能、思考・判断・表現、学ぶ意欲について示しているが、一般的な内容なので、もう少し視点を絞った方が良い。例－自分と向き合う（２・３年P17） ・ 学習のポイント（制作写真・言葉）その他、様々なマークが充実しており、分かりやすい設定になっているが、学習の目標にまとめてもよいかと考える。 <p>観点（２）個性を生かして活動することができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に作家の作品が中心なので生徒作品が少ないような印象を受けてしまう。生徒達からの親近感等から考えると作品の持つ影響が強くなる可能性があるので、生徒作品を前面にだすような構成が望ましい。 ・ デザインや工芸など身近な題材を取りこみ良いと思う。 <p>観点（３）「A表現」と「B鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構成自体は、鑑賞のみが独立した形式になっている。 ・ A表現・B鑑賞は表裏一体の関係なので、ページが独立しない設定の方が現実的である。ただし、鑑賞学習のみを追求した際には意義ある構成である。 <p>観点（４）表記や表現が適切であり、各ページの資料や紙面のデザイン等が学習意欲を喚起するよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くのインデックス表記がなされている。その意味から考えると、理解しやすい設定と言えるが、一つ一つは非常に細かいので、見やすいとはいえない。
光村	<p>構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年では、図画工作とのつながり、美術との関わり方を示し、見て、感じる、自然の色、人のしぐさ、版画、風景画、心象画、素材、文様、

文字、シンボルマーク、ビジュアルデザインに関する題材構成、展開になっている。2・3年ではそれらを進めた構成で学びを支える資料が充実しているのが特徴である。

※領域開始ページは基本解説ページがあり基礎→応用という設定となっている。

※題材によっては、みんなの工夫（インデックス）で生徒の制作過程を紹介することで分かりやすくなっているが、例示としての影響が強くなる可能性がある。

- ・2、3年では1年の展開とほぼ同様な題材設定である。各題材では作家の作品を大きく取り上げる傾向が感じ取れる。よってそれなりに影響力があるものとする。風景画（2・3年P6）クレア・空想画（2・3年P16）マグリット
- ・資料ページ（P76～103）では、ほぼ全領域で作業写真があるので分かりやすい。

□観点との関係

観点（1）表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。

- ・造形的な視点については、具体的な視点が示されていない。しかし、発想、構想についてはインデックスで視点が示されているので、考えるきっかけになっている。鑑賞に関してはインデックスで具体的な視点が示されているので良い。

観点（2）個性を生かして活動することができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。

- ・作家中心の大画面の作品紹介はインパクトもあり、そこから発想を大きく広げていく可能性が期待できる。しかし、崇高感が際立つ分、造形活動を身近なものとして受容できるかは、指導の方法によるところがある。

観点（3）「A表現」と「B鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。

- ・鑑賞ページの設定の割合は普通だが、観点（2）で示したように作家の作品を前面に押し出している感じが強い。原則鑑賞は表現と一対になっている。

観点（4）表記や表現が適切であり、各ページの資料や紙面のデザイン等が学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

- ・全体的に分かりやすく丁寧な構成になっている。一定の意欲を喚起する構成ではあるが、題材によっては制作画像の印象が強く、個性的な作品制作に繋げるためには指導者の教示方法によるところが大きい。風景画（23年P6～P9）鑑賞→発想→みんなの工夫→鑑賞

日文

構成

- ・1年は大きく対象を見つめる、じっくり見つめる、人間のおもしろさ、素材との出会い、美術の暮らしとの関わりという題材構成、展開になっている。
- ・2・3年では一歩進め、視点、構図、素材の変化、心象、抽象表現、アニメーション、美術文化、美術と暮らしとの深い関係を示す内容と

なっている。(学びを支える鑑賞)

- ・構成的には基礎、応用、探求という流れで発達段階を踏まえた学習内容であり、発達段階を意識した構成になっている。それらを三部構成で編集しているのが特徴的である。

□観点との関係

観点（１）表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。

- ・生活や社会との関わりについては、デザインや工芸分野（P 32～49）に具体的に示されており、美術と生活の強い結びつきが実感として理解できる。
- ・造形的な視点（インデックス）の表記は、考えるべき造形的な視点を示し、生徒自身が造形要素を考え発想できるよう意図している。指導者も題材設定で試行錯誤する部分なので、ポイントとして大きいと考える。
- ・各題材設定では、サブテーマで考える視点が示され発想を促す設定になっている。（2・3年上P 12～13）

※学びの目標は、特に明確な表記で造形的な視点が示され、資質や能力を高めるために適切な表記となっている。造形的な正しい視点をもって繰り返し対象を眺める、考える習慣が必要であり、そのような視点をもって三年間美術学習に取り組むことで、感性や想像力が磨かれるものと期待できる。

※題材設定が生徒の制作欲求をかき立てる身近なものが多く、テーマ、サブテーマの示し方から、視点が明確となり、その後の主題設定、発想、構想への展開がスムーズになる。

観点（２）個性を生かして活動することができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。

- ・身近な素材から造形作品を作ること、生徒の興味や関心をそそのものとなっている。（1年P 14～15）（1年P 20～21）
- ・生徒の作品を大きく多く取り上げている。そのことで活動への親近感を高め、意欲に結びつけている。その他、模様・マーク・文字・シンボルマークなど美術的な視点で取り上げることで、美術が身近な活動であることを示している。

観点（３）「A表現」と「B鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。

- ・内容の改善から、全表現領域が鑑賞と対になっている。考えたことや感じ取ったことに基づいて発想や構想を練る、鑑賞する。目的や機能を考え、発想や構想を練る、鑑賞するに適応した内容になっている。
- ・表現、鑑賞の共通事項「形、色彩、材料、光の造形要素と働きへの視点」・「造形的な特徴（イメージ）への視点」を持つことで、より学習が深まり自主的な学習が期待できる。
- ・美術の働きや美術文化に関する鑑賞は独立している。

観点（４）表記や表現が適切であり、各ページの資料や紙面のデザイン等が学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

- ・分野のインデックス表記・題材、学習の目的（表記）、学力の三要素

のロゴ表示、造形的な視点表記、生徒、作家作品、制作シーン、言葉表記で分かりやすい構成である。特にゆったりした構成になっており、詰め込みすぎないよう配慮されている。

- 生徒作品の画像が大きいのは魅力的である。